



39 カザフスタン イルティシュ川 橋梁建設事業

橋梁および周辺道路の建設により
主要幹線道路交通の円滑化に貢献

承諾額／実行額	215億3,000万円 / 212億3,600万円
借入契約調印	1997年3月
借入契約条件	金利2.7% (コンサルティングサービス部分は2.3%)、 返済30年 (うち据置10年)、一般アンタイド
貸付完了	2004年6月
実施機関名	セミパラチンスク州 (現在は東カザフスタン州)



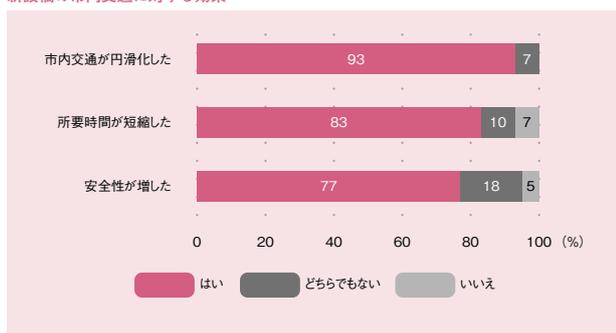
本事業の目的

東カザフスタン州セミパラチンスク市において、イルティシュ川に架かる新設橋および周辺道路等を建設することにより、主要幹線道路交通の円滑化および安全性確保をはかり、地域経済の活性化に寄与することを目的とする。

本事業実施による効果 (有効性・インパクト) 評価 a

本事業の新設橋建設により、イルティシュ川両岸の間の交通量が審査時想定を大きく上回って増加し、かつ交通が円滑化した。当初計画では既存橋および新設橋の年平均日交通量は4万2,215台を予定していたのに対し、2006年実績では7万9,289台と計画値を大幅に上回った。整備道路区間の通行所要時間は事業前の実績値が108分であり、計画では渋滞の解消により、既存橋経由ルート17分に、新設橋経由ルートで9分に短縮される予定であった。2006年実績では各ルートの所要時間はそれぞれ21分、11分となっており、ほぼ計画を達成している。また、本事業による交差点や踏切の立体化、左折車線の設置、歩道の分離等により、道路交通の安全性が向上したことが確認された。さらに、本事業実施後、セミパラチンスク市の工業生産高は国および東カザフスタン州全体の増加率を上回っており、本事業橋梁はセミパラチンスクを経た道路輸送においては必須の存在であることから、地域の産業発展に寄与しているといえる。よって、本事業の実施により概ね計画通りの効果発現がみられ、有効性は高い。

新設橋の市内交通に対する効果



(出典) 受益者調査 (新設橋利用者 100名対象)

本事業実施と国家計画等との整合性 (妥当性) 評価 a

本事業の実施は審査時および事後評価時ともに、国家計画等と合致しており、既存橋が老朽化のため車線規制等により円滑な交通が阻害されていたことから、緊急性、ニーズ共に高く、事業実施の妥当性はきわめて高い。

事業実施の経済性 (効率性) 評価 b

本事業は、期間についてはほぼ計画通りであったものの、事業費が計画を若干上回ったため (計画比 106%)、効率性についての評価は中程度と判断される。

今後の展望 (持続性) 評価 C

橋梁および道路の状態は概ね良好であるが、2007年4月現在、維持管理機関がまだ存在せず、維持管理のための予算手当てもなされていないことから、持続性についての評価は低い。

結論と教訓・提言

以上により、本事業の評価は概ね高いといえる。本事業の提言として、東カザフスタン州は速やかに維持管理機関を設置し、予算を確保し、本事業で調達した建設機械および維持管理機器をコントラクターから引き取り適切に使用・管理することが望まれる。



新設橋利用者への
聞き取りの様子

開発途上国専門家の意見

本事業により円滑な道路交通が実現した。セミパラチンスク市の地理的位置づけから本橋梁の重要性は高く、早急な維持管理体制の確立が望まれる。

専門家の氏名: Mr. Murat T. Laumulin (学者)
モスクワ科学アカデミー博士 (産業発展史)。元 在独カザフスタン大使館 1等書記官・商務官。現在は、カザフスタン戦略研究所外交政策局副局長。専門は外交。